

保育者養成における初年次教育「スタートアップセミナー」の 取り組みの現状と課題 ——教員の質問紙による意識調査から——

山本 彩未^{*,**}

Current State and Issues of First-Year Experience at Universities “Start-up seminar” for Training of Teacher in Early Childhood Care and Education —A study of through the survey of teacher’s attitude—

YAMAMOTO Saimi

要 約

本研究は、2019年の初年次教育科目「スタートアップ」を担当した教員を対象に質問紙による意識調査を行い、「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」、「保育表現技術（人形劇鑑賞およびペープサート劇の作成及び発表）を通した教育的効果」、「今後の課題」について考察し、次年度以降に向けた課題を明らかにすることを目的とした。その結果、「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」として、基本的な保育のしくみや専門教育を1年春学期の早い段階で習得させることが望まれているように伺えた。「保育表現技術を通した教育的効果」については、概ね教育的効果は高いと考えられているように伺えたが、鑑賞する意味や観る視点についての学習や実施時期の検討が課題としてあげられた。

1. はじめに

文部科学省の「平成30年度学校基本調査」¹⁾によると、高等教育機関進学率は81.5%、大学（学部）進学率は53.3%で過去最高値であったことが報告され、高等教育のみならず大学教育もユニバーサル化している。このユニバーサル化がもたらしたであろう、学生の学力や学生の考え方の変容（あるいは多様化）は顕著であり、こうした状況においては、初年次教育は学生が大学生活や大学教育に適應するために必要不可欠と考えられる。

山田²⁾によると、2010年度時点で82%の大学（595

大学）が初年次教育を実施していることが報告されており、内容や方法等に課題はあるものの、ほとんどの大学が実施するようになっている。本学科においても、2010年より初年次教育「スタートアップセミナー」が位置づけられ、現在に至っている。このスタートアップセミナーは、すべての学部学科の教育目的につながる基礎的な科目のひとつであり、全学部・学科に共通の内容と各学部・学科の特色に合わせた内容から構成されている。運用については各学部学科にまかされており、学科独自の課題をくわえることが可能となっている。本学科ではこれまでの授業内容の検討は、学生および教員の授業評価を参考に検討されてきたが、詳細な検討には至っていない。

* 中部大学教育実習センター

** 中部大学現代教育学部幼児教育学科

2. 幼児教育学科初年次教育「スタートアップセミナー」の内容

この科目は、すべての学部学科の教育目的につながる基礎的な科目のひとつで、新入生全員が受講する必修科目である。授業内容は、全学部・学科に共通の内容と各学部・学科の特色に合わせた内容から構成されている。全学部・学科に共通の内容は、「1. 建学の精神・基本理念、教育上の使命・目的、自校史等」、「2. 大学生活のライフプランとキャリアデザイン」、「3. 大学生としての学びのスキル」、「4. 大学生の対人関係、大学生活の安全・安心」で、各学部・学科の特色に合わせた内容は、学部・学科の教育目的・目標、専門分野の概念、社会的意義、専門分野における学びのスキルなどである。

具体的目標は次の5つである。

- ・所属する大学・学部・学科の成り立ち・理念、教育目的を理解する。
- ・大学の中で人間関係、特に学習コミュニティを構築する。
- ・大学生としての主体的な学習姿勢・学習方法・学習スキルを身につける。
- ・社会人としてのルール、自己管理能力やコミュニケーション力を身につける。
- ・4年間の大学生活・卒業後の進路・キャリアにつ

いて考え、計画を立てる。

1) 授業内容

先にも述べた通り、授業内容は、全学部・学科に共通の内容と各学部・学科の特色に合わせた内容から構成されており、その詳細について表1に示す。

2) 授業方法

受講者：幼児教育学科1年生

開講時期：1年生前期、週1コマ（90分）×15回、1グループ20名程度の4グループで実施。

授業形態：演習

テキスト：大学で学ぶ スタートアップセミナー参考テキスト2019³⁾

3. 本研究の目的

本研究は、2019年の初年次教育科目「スタートアップセミナー」を担当した教員を対象に質問紙による意識調査を行うことによって、「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」、「保育表現技術（人形劇鑑賞およびペープサート劇の作成および発表）を通じた教育的効果」、「今後の課題」について考察し、次年度以降に向けた課題を明らかにすることを目的とする。

表1 授業内容

授業回	内容	形態
1	大学を知ろう	全体（講義） グループ（演習）
2	幼児教育学科での学び	全体（講義） グループ（演習）
3	保育者とは何か	全体（講義） グループ（演習）
4	保育所見学に向けて（保育所見学のねらいと内容）	全体（講義） グループ（演習）
5	保育所見学	全体（演習）
6	保育所見学での学びの共有	グループ（演習）
7	発表会（保育所見学での学び） 保育表現活動説明会（保育表現活動のねらいと内容）	全体（演習） グループ（演習）
8	人形劇の観劇・ペープサートワークショップ	全体（演習）
9	学びのスキル・保育表現活動	全体（講義） グループ（演習）
10	社会生活の基礎・保育表現活動	全体（講義） グループ（演習）
11	大学生活の安全・安心・保育表現活動	全体（講義） グループ（演習）
12	保育表現発表会リハーサル（ペープサート）	全体（演習）
13	保育表現発表会	全体（演習）
14	発表会準備（スタートアップの学びについて）	グループ（演習）
15	グループ内発表会（スタートアップの学びについて）	グループ（演習）

4. 方法

1) 対象者

初年次教育科目「スタートアップセミナー」担当教員12名のうち、著者を除く11名を対象とした。

2) 調査項目の作成

スタートアップセミナーの授業主旨と現在の授業内容から、1年生春学期に身につけるべき保育の専門性と保育表現技術（人形劇鑑賞とペープサート劇の作成および発表）を通した教育的効果について質問項目を作成した。試行的取り組みの段階であるため、授業担当者から自由記述による意見を聞く形式をとった。

3) 実施方法と時期

2019年春学期の15週の授業終了後に対象者全員に質問紙草案を配布し、記入要領、分析方法および分析にあたって、出された意見はコード番号をつけ匿名性を守ることを説明した。そのうえで、記名式で行うこと、得られた結果は本論文で発表すること、について了解を求めた。了解の有無について、書面にて○印をつけるよう求めた。後日、質問紙を配布して1週間以内に回収を求め、全員の回収を得た。

4) 調査内容

質問紙の主な調査内容は、「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」、「保育所見学・保育表現技術を通した教育的効果と課題」、「スタートアップによる保育観形成」、「今後の課題」の4項目であり、自由記述による回答を求めた。本報告では、次年度以降の課題を明らかにするために、短期的に検討が可能な「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」、「保育表現技術（人形劇鑑賞およびペープサート劇の作成および発表）を通した教育的効果」、「今後の課題」の3項目について検討した。「スタートアップによる保育観形成」については、中・長期的な検討が必要と判断し、本研究の検討から外した。

なお、保育表現技術（人形劇鑑賞およびペープサート劇の作成および発表）を通した教育的効果については、人形劇鑑賞とペープサート劇の作成および発表にわけ、「身体表現の教育的効果」と「造形表現

の教育的効果」から検討した。

5) 分析方法

各回答者から得られた自由記述回答を松尾ら^{4) 5)}の手順にしたがって以下のように分析した。

(1) 記述内容の整理

自由記述内容を意見や要望を記入した〔有効回答〕、「わかりません」やその他の記述を一括した〔無効回答〕に2分類した後、記述内容を次の手順で分析した。

(2) 1次カテゴリーの設定

記述内容を表わすカテゴリー（1次カテゴリー）を作成した。1人の回答者の自由記述中に複数の意見や課題が記述されている場合は、それぞれを独立したものとして分類した。

(3) 2次カテゴリーの設定

1次カテゴリーを似たような内容ごとに集約、包括した。①1年生春学期に身につけるべき保育の専門性については2次カテゴリー5つを設定した。②保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した身体表現の教育的効果については2次カテゴリー3つ、③保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した造形表現の教育的効果、④保育表現技術（ペープサート劇の作成および発表）を通した身体表現の教育的効果、⑤保育表現技術（ペープサート劇の作成および発表）を通した造形表現の教育的効果については2次カテゴリーを4つ設定した。⑥今後の課題については2次カテゴリー3つ設定した。定義は次のようである。

① 1年生春学期に身につけるべき保育の専門性

①-1 学問・教養としての学び：大学における学びに関する記述。専門教育とは異なる。

①-2 初年次教育としての位置づけ：保育者養成4大校としての初年次教育に関する記述。

①-3 専門教育との関連：専門教育の基礎的な学びに関する記述。

①-4 保育のしくみ：福祉職と教育職の導入に関する記述。

①-5 保育の仕事理解：保育や子どもへの関心に関する記述。

② 保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した身体表現の教育的効果

②-1 身体表現に関する教育的効果：身体の動

かし方や大きい動きなど身体表現の技術に関する記述。

②-2 一般的な教育的効果：感性や動機づけに関する記述。

②-3 その他：以上のカテゴリーのいずれにも該当しない記述。

③ 保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した造形表現の教育的効果

③-1 造形表現に関する教育的効果：素材特性、色彩感覚、造形表現の工夫など造形表現の技術に関する記述。

③-2 一般的な教育的効果：感性や動機づけに関する記述。

③-3 その他：以上のカテゴリーのいずれにも該当しない記述。

③-4 なし：意見なし。

④ 保育表現技術（ペープサート劇の作成および発表）を通した身体表現の教育的効果

④-1 身体表現に関する教育的効果：人形や身体の動かし方に関する記述。

④-2 グループ活動で得られる教育的効果：作品に複数で携わることが望ましいとする記述。

④-3 その他：以上のカテゴリーのいずれにも該当しない記述。

④-4 なし：意見なし。

⑤ 保育表現技術（ペープサート劇の作成および発表）を通した造形表現の教育的効果

⑤-1 造形表現に関する教育的効果：素材、材料、装置など造形表現の工夫に関する記述。

⑤-2 グループ活動で得られる教育的効果：作品に複数で携わることが望ましいとする記述。

⑤-3 その他：以上のカテゴリーのいずれにも該当しない記述。

⑤-4 なし：意見なし。

⑥ 今後の課題

⑥-1 授業内容：授業における指導や工夫に関する記述。

⑥-2 授業運営：教員がすべきことや授業内容に関する記述。

⑥-3 その他：授業のねらいや運営以外の記述。

(4) 再分類化

自由記述の内容を再び読み直し、設定したうえで2次カテゴリーに分類し直した。

(5) 評定の信頼性

2次カテゴリーへの再分類化の評定作業を再度行い、一致した場合のみとりあげた。

5. 結果と考察

1) 1年生春学期に身につけるべき保育の専門性について（表2）

1年生春学期に身につけるべき保育の専門性について26個（236.6%）の意見が述べられ、回答者1人あたり平均意見数は2.4個であった。「保育のしくみ（63.6%）」、「専門教育との関連（54.5%）」、「学問・教養としての学び（45.5%）」、「保育の仕事理解（45.5%）」、「初年次教育としての位置づけ（27.3%）」の順に出現率が高かった。以下、出現率の高い順にとりあげる。「保育のしくみ」については、公務員保育職と私立保育職の違いや福祉職と教育職の違いなど、基本的な保育のしくみについて習得し、仕事の理解への導入に取り組む必要があると記述されていた。「専門教育との関連」については、原理系科目や社会福祉の初歩の学びや5領域内容の関連についての理解が必要である、などが記述されていた。「学問・教養としての学び」については、大学生としての自立した姿勢を養う、教養、学術の基礎を十分に押さえるなどの記述されていた。「保育の仕事理解」については、子どもや保育そのものへの関心や楽しさを知る必要がある、などの記述であった。最後に、「初年次教育としての位置づけ」については、保育者の専門性を養護と教育の2側面から正しく理解することと記述があった一方で、保育の専門性に特化する必要はないとの記述もあった。

以上を総合的に考察すると、保育への関心や楽しさといった漠然とした体験や経験よりも、基本的な保育のしくみ、専門教育との関連、大学生として必要とされる学問や教養としての学びへの姿勢を1年生春学期の早い段階で習得させることが望まれているように伺える。初年次教育に、保育に関する基本的な内容を組み込みことは専門科目への学びの理解が高まることが期待できるが、これについては今後の

検討課題としたい。

表2 「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現
(有効回答 26 個、複数回答)

	数字は人数 (%)	
保育のしくみ	7	(63.6)
専門教育との関連	6	(54.5)
学問・教養としての学び	5	(45.5)
保育の仕事理解	5	(45.5)
初年次教育としての位置づけ	3	(27.3)
合計	26	(236.6)

2) 保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した身体表現／造形表現の教育的効果について

身体表現を通した教育的効果について14個(127.3%)の意見が述べられ、回答者1人あたり平均意見数は1.3個であった。「身体表現に関する教育的効果(54.5%)」、「一般的な教育的効果(36.4%)」、「その他(36.4%)」の順であった(表3)。「身体表現に関する教育的効果」に関する意見には、保育技術としてのテクニック(人形の使い方・人形と一体となった立体的な動き・舞台の隅々まで活用する広くて大きい動きなど)の習得につながるとした意見が主であった。「一般的な教育的効果」には、学生の動機づけや意欲の向上、学生たちの目指すべき姿のイメージにつながるとした肯定的なものが多くあげられていた。「その他」の意見には、鑑賞の時期や見せ方を考慮すべきという意見があった。

造形表現を通した教育的効果について15個(127.3%)の意見が述べられ、回答者1人あたり平均意見数は1.4個であった。「造形表現に関する教育的効果(63.6%)」、「一般的な教育的効果(27.3%)」、「その他(9.1%)」、「なし(27.3%)」の順であった(表4)。「造形表現に関する教育的効果」に関する意見には、色彩感覚を養えることや素材の特性を知ること、子どもたちの目を釘付けにする造形表現の工夫を知ることができる、などがあげられていた。「一般的な教育的効果」に関する意見については、学生の動機づけや意欲の向上、学生たちの目指すべき姿のイメージにつながるとした肯定的なものが多くあげられていた。「その他」の意見には、鑑賞の時期や見せ方を考慮すべきという意見があった。

以上を総合的に考察すると、プロの人形劇鑑賞か

ら得られる教育的効果は高いと考えられていることが伺える。しかしながら、鑑賞の時期や見せ方を考慮すべきという意見があげられていることから、鑑賞する意味や観る視点について事前学習する機会の設定が必要であり、現在の実施時期が適当かどうか検討する必要があると考えられる。

表3 「保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した身体表現の教育的効果」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現(有効回答 14 個、複数回答)

	数字は人数 (%)	
身体表現に関する教育的効果	6	(54.5)
一般的な教育的効果	4	(36.4)
その他	4	(36.4)
合計	14	(127.3)

表4 「保育表現技術（人形劇鑑賞）を通した造形表現の教育的効果」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現(有効回答 15 個、複数回答)

	数字は人数 (%)	
造形表現に関する教育的効果	7	(63.6)
一般的な教育的効果	3	(27.3)
その他	1	(9.1)
なし	3	(27.3)
合計	15	(127.3)

3) 保育表現技術（ペープサート劇の作成及び発表）を通した身体表現／造形表現の教育的効果について

身体表現を通した教育的効果について14個(127.3%)の意見が述べられ、回答者1人あたり平均意見数は1.3個であった。「身体表現に関する教育的効果(72.7%)」、「グループ活動で得られる教育的効果(18.2%)」、「その他(18.2%)」、「なし(18.2%)」であった(表5)。「身体表現に関する教育的効果」に関する意見には、身体を動かすことの難しさを体験する、人形の動かし方に気づく、人形を動かすための自分の動きに気づくなどの意見であった。「グループ活動で得られる教育的効果」には、作品づくりに複数で取り組み、発表にむけてつくりあげていくことに有効であるとの意見があった。「その他」の意見には、鑑賞側をイメージして作成する体験ができるという意見があった。

造形表現を通した教育的効果について12個(109.1%)の意見が述べられ、回答者1人あたり平

均意見数は1.1個であった。「造形表現に関する教育的効果(54.5%)」、「グループ活動で得られる教育的効果(9.1%)」、「その他(9.1%)」、「なし(36.4%)」であった(表6)。「造形表現に関する教育的効果」に関する意見には、既成のものに頼らず自分たちで工夫して作り上げていく経験が有効、異なる素材や材料を工夫して作り上げる経験が有効、など造形表現の工夫に関する意見が主であった。「グループ活動で得られる教育的効果」には、作品づくりに複数で取り組み、発表にむけてつくりあげていくことに有効であるとの意見があった。その他」の意見には、鑑賞側をイメージして作成する体験ができるという意見があった。

以上を総合的に考察すると、身体表現と造形表現のいずれの側面からみても、ペープサート劇の作成および発表を通した教育的効果は高いと考えられていることが伺える。また、グループ活動で得られる教育的効果についても肯定的な意見があげられていたことから、複数の学生が協力して作品をつくりあげる過程で学生のコミュニケーション能力の構築につながるのではないかと考えられる。これらを支持する知見として、佐藤ら⁶⁾は、ミュージカル上演などの総合表現活動は、表現力そのものだけでなく、学生の主体性や社会性を伸ばす効果が期待できると述べている。また、津山ら⁷⁾は、保育者養成における音楽劇の制作と上演による表現意識や表現力の向上と人間関係力の上昇について報告している。学生の主体性や社会性、コミュニケーション能力は、保育者に求められる資質能力である。本研究で取り組んだペープサート劇の作成・上演も総合表現活動の一つであり、表現力そのものだけでなく、この経験を通して保育者に求められる資質能力の育成が期待できると考えられる。

4) 今後の課題について(表7)

今後の課題について24個(218.1%)の意見が述べられ、回答者1人あたり平均意見数は2.1個であった。「授業運営(145.5%)」、「授業内容(63.6%)」、「なし(9.1%)」の順であった。「授業運営」には授業内容の量や教員の振り返り方法に関する意見が主として記述されていた。「授業内容」には、保育者養成における初年次教育の適切な授業内容や展開に

表5 「保育表現技術(ペープサート劇の作成及び発表)を通した身体表現の教育的効果」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現(有効回答14個、複数回答)
数字は人数(%)

身体表現に関する教育的効果	8	(72.7)
グループ活動で得られる教育的効果	2	(18.2)
その他	2	(18.2)
なし	2	(18.2)
合計	14	(127.3)

表6 「保育表現技術(ペープサート劇の作成及び発表)を通した造形表現の教育的効果」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現(有効回答12個、複数回答)
数字は人数(%)

造形表現に関する教育的効果	6	(54.5)
グループ活動で得られる教育的効果	1	(9.1)
その他	1	(9.1)
なし	4	(36.4)
合計	12	(109.1)

関する意見が主として記述されていた。以上の結果から、今後は、次年度の検討課題として容易に取り組めることと継続的な検討課題として取り組まなければならないことに精査し、改善していきたい。また、学びの意欲向上のための工夫や大学生としての意識をもたせる方法の検討を次年度にむけて準備していきたい。

表7 「今後の課題」に関する自由記述の2次カテゴリーの出現(有効回答24個、複数回答)
数字は人数(%)

授業運営	16	(145.5)
授業内容	7	(63.6)
なし	1	(9.1)
合計	24	(218.1)

6. 総合的考察

本研究は、2019年の初年次教育科目「スタートアップ」担当教員を対象にした質問紙による意識調査から、「1年生春学期に身につけるべき保育の専門性」、「保育表現技術(人形劇鑑賞およびペープサート劇の作成および発表)を通した教育的効果」、「今後の課題」について考察し、次年度以降に向けた課題を明らかにすることを目的とした。その結果、「1

年生春学期に身につけるべき保育の専門性」として、保育への関心や楽しさといった漠然とした体験や経験よりも、基本的な保育のしくみや専門教育を1年生春学期の早い段階で習得させることが望まれているように伺えた。保育表現技術については、人形劇鑑賞とペープサート劇の作成および発表について身体表現と造形表現の側面から検討した。いずれの保育表現技術についても、身体表現と造形表現のどちらにおいても肯定的な影響に関する意見が多くあげられており、学生への教育的効果は高いと考えられていることが伺えた。また、人形劇鑑賞を通した造形表現の教育的効果、ペープサート劇の作成および発表を通した身体表現の教育的効果ならびに造形表現の教育的効果に対して「なし」の回答があった。推測の域を出ないが、教育的効果を否定的に捉えた回答とは考えにくく、質問紙の問い方に問題があったのではないかと考える。つまり、本研究の質問紙において身体表現と造形表現に専門領域を限定し、この2つの観点から教育的効果を問うたことが原因ではないかと考える。

人形劇は多くの保育現場で実践されており、先行研究においても人形劇に関する知識と技術の習得および保育現場での実践の両面の重要性について指摘されている^{8) 9)}。したがって舞台人の人形劇を鑑賞し、知識や技術を習得することは有用と考える。久光ら¹⁰⁾は、73園の保育者を対象に音楽・造形・身体それぞれの表現活動の知識や技術の「必要性や適切な習得時期について」調査した結果、「基礎技能」は保育者養成校で、「指導する力」は子どもの姿を見据えた実践的な力として保育現場において習得すべきという傾向を示している。これらの報告から、表現に関する知識や技術は大学生のうちに習得することが望ましいと考えられる。人形劇のみならずペープサート劇は、身体表現、美術、音楽など、多分野にまたがった総合芸術であり、本研究の結果も併せて勘案すると、1年生での実施は時期尚早のように考えられる。本研究においても鑑賞の時期や見せ方を考慮すべきという意見があげられており、鑑賞する意味や観る視点についての学習が必要であり、現在の実施時期が適当かどうか検討していきたい。他方、ペープサート劇の作成および発表は、複数の学生が協力して作品をつくりあげる過程で学生

のコミュニケーション能力の構築が期待できる。保育現場では人間関係力やコミュニケーション力が大変必要とされるため、表現技術の総合的な学びからの習得は重要であると考ええる。以上のことから、保育表現技術については、初年次教育での実施に限らず、大学4年間の学びのいずれかでの実施を検討する必要があると考えられる。本研究であげられた意見から、次年度の検討課題として容易に取り組めることと継続的な検討課題として取り組まなければならないことを精査し、次年度にむけて準備していきたい。

謝辞

本研究の趣旨を理解し、質問紙による意識調査を快く協力して頂いた、幼児教育学科の先生方に感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省:平成30年度学校基本調査(確定値)の公表について http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2018/12/25/1407449_1.pdf, 2019年9月20日閲覧。
- 2) 山田礼子:大学の機能分化と初年次教育—新入生像をてがかりに、日本労働研究雑誌, 629, 31-43, 2012.
- 3) 中部大学, 大学で学ぶ スタートアップセミナー参考テキスト2019, 1-93, 2019.
- 4) 松尾久枝, 石川道子, 二村眞秀, 渡辺勸持, 内藤敬子, 清水桂子:未熟児をもつ母親から見たフォロー体制の現状—郵送による追跡調査の自由記述回答の分析, 保健婦雑誌, 48(9), 697-702, 1992.
- 5) 松尾久枝, 石川道子, 二村眞秀, 内藤敬子, 清水桂子, 渡辺勸持:ハイリスク児をもつ母親の医療・社会資源へのニーズ—未熟児の母親へのサポートのために—, 小児の精神と神経, 33(1), 53-60, 1993.
- 6) 佐藤隆弘, 金城悟, 花輪充, 井戸裕子, 笹井邦彦, 細田順子, 大澤力, 水野智美, 徳田克己:「保育総合表現」の授業が保育科短大生にもたらす効果, 東京家政大学研究紀要, 54(1), pp1-8, 2014.
- 7) 津山美紀, 矢野洋子, 富永剛, 田中敏明:保育を学ぶ学生の表現力と人間関係力の向上を目指した音楽劇—関係5分野の連携による共同制作—, 九州女子大学紀要, 53(2), 75-84, 2016.

- 8) 向平千絵, 棚橋美代子, 米谷淳: 保育学生に対する人形劇の実習指導に関する一考察, 大學教育研究, 16, 33-50, 2007.
- 9) 米谷淳, 棚橋美代子, 向平千絵: 「保育者養成における人形劇の活用—丹下進の人形劇指導—」, 京都女子大学発達教育学部起用, 4, 29-39, 2008.
- 10) 久光明美, 弘中陽子, 原井輝明: 保育者養成校における教科目「保育表現技術」の授業のあり方について—保育現場を対象とした「保育表現技術」のアンケート調査を通して—, 日本保育者養成教育学会第3回研究大会プログラム・抄録集, 82, 2019.

受付日 2019年9月30日

受理日 2019年10月29日